

令和6年「全国学力・学習状況調査」結果より

1, 各教科結果の分析

<国語> 本年度は県・全国平均よりやや下回っていました。今回、特に低かったのは、知識・技能では「我が国の言語文化」で、行書と楷書の異なる部分を選ぶ問題でした。また、思考力・判断力・表現力の観点では、「読むこと」がよくありませんでした。問題形式では、記述式でのポイントが低かったです。今まで本校の課題であった、条件作文的な問題は、やや改善傾向が見られました。また、今回「話すこと・聞くこと」が県・全国をやや上回っており、これは、2年間道德の研究指定を受け、議論する道德を目指し、様々な教科や場面で話し合いに取り組んできた成果と考えられます。

<数学> 県・全国平均よりやや下回っていました。ただし、「図形」の証明の記述が県・全国よりも上回っています。「データの活用」の正答率が低く、昨年度同様、箱ひげ図についての理解がまだ課題であることが分かりました。問題形式では、「選択式」であっても正答率が低いことから、問題文が長くなると、情報を上手く処理できていないことが推測されます。

●以上<国語>と<数学>の結果を総合すると、本校の生徒は、**会話文などの短文でのやりとりは読み取れるが、長文の内容を理解して、要約する力**が、不足していると考えられます。今後は、この力の育成にスポットをあて、改善を目指してまいります。

2, 生徒質問紙より

「朝食を食べる」「定時に起床する」など、基本的な生活習慣は良好で、9割もしくは9割近くが肯定的回答となっていました。また、「いじめは悪い」「人の役に立ちたい」は9割を超え、過去の結果同様に、**規範意識が高くルールや決まりを守り落ち着いて学校生活を送ることができる生徒**の姿が伝わってきます。また、本年度は、「自分には良いところがある」「先生は良いところを認めてくれる」等、自己肯定感が向上していました。これは、昨年度から実施しているQ-Uというアンケートで、生徒一人一人や学級の状況を把握するとともに、本年度は教育相談を特に丁寧に実施している成果であると考えられます。一昨年度からの課題である、**スマホやゲーム等の時間を減らし家庭学習を充実させること**に関しては、家庭学習の時間が2時間以上3時間未満の生徒が、県・全国平均を上回りましたが、1時間より少ない生徒数が4割近くあります。また、スマホやゲーム等の時間に関しては、以前よりはやや改善傾向にありますが、2人に1人は2時間以上はやっており、さらに、4時間以上という生徒が2割を超えているという結果です。今後も学校で指導していきますが、御家庭でも御協力をお願いします。